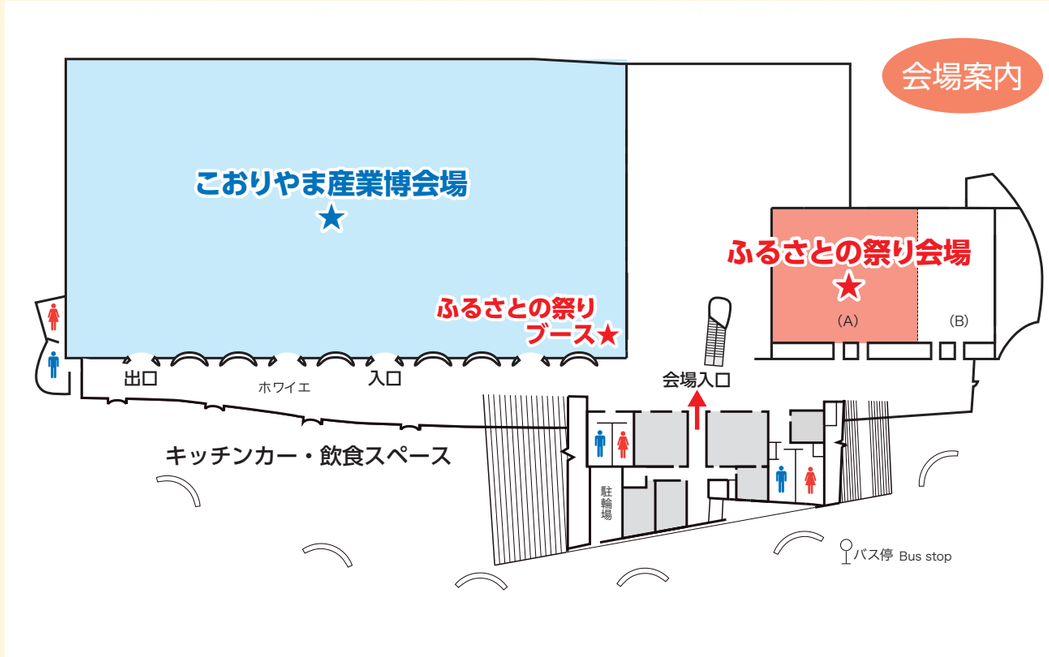
ふるさとの祭り2024 inこおりやま



出演団体や会場などに関する最新の情報は、福島県のホームページをご確認ください。

臨時駐車場と無料シャトルバスのご案内

10月12日(土)・13日(日)は、ビッグパレットふくしまの駐車場の混雑が予想されるため、AGCエレクトロニクス郡山カルチャーパーク第5駐車場を臨時駐車場として開設し、ビッグパレットふくしま⇔臨時駐車場間の無料シャトルバスを運行します。シャトルバスの利用者には、「あぐりあ」で利用できる割引券を配付しますので、ぜひご利用ください。
なお、ビッグパレットふくしま近隣の商業施設等への迷惑駐車は絶対におやめください。

乗車無料 利用者特典付き

※こおりやま産業博・ふるさとの祭りへのご来場以外の目的での臨時駐車場・シャトルバスのご利用はご遠慮ください。
※割引券は「あぐりあ」農産物直売コーナーのみで、10月12日(土)・13日(日)の2日間に限りご利用いただけます。

会　場

ビッグパレットふくしま
郡山市南2-52

駐車場

AGCエレクトロニクス郡山カルチャーパーク
郡山市安積町成田東丸山61

バス時刻表　駐車場↔会場

郡山カルチャーパーク【発】

午　前	午　後
9:00	13:30
9:30	14:00
10:00	14:30
10:30	15:00
11:00	
11:30	
12:00	
12:30	

ビッグパレットふくしま【発】

午　前	午　後
11:00	13:00
11:30	13:30
12:00	14:00
	14:30
	15:00
	15:30
	16:00
	16:30

2024年（令和6年）
10/12(土)
10/13(日)
10:00～16:00
※終了時刻は変更になる場合があります。

会場／ビッグパレットふくしま
コンベンションホールA
福島県郡山市南2丁目52番地

入場無料

ふるさとの祭り in こおりやま 2024

お問い合わせ　ふるさとの祭り実行委員会（福島県文化振興課内）TEL.024-521-7154　FAX.024-521-5677
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055a/furusato.html　ふるさとの祭り　福島
メール bunka@pref.fukushima.lg.jp

主催 / 福島県、ふるさとの祭り実行委員会

ひと、コト、実現する ふくしま

同時開催

こおりやま産業博
KORIYAMA EXPO 2024
未来を拓く、100年の挑戦

日時　10・12(土)・13(日)
10:00～16:00
入場無料

こおりやまの商業、工業、農業、観光、福祉、文化が一堂に会した大展示会！

主催／こおりやま産業博実行委員会（郡山市・郡山商工会議所・福島さくら農業協同組合・郡山地区商工会広域協議会）

ステージプログラム

※都合により出演団体及び出演日時が変更になる場合があります。

12（土） 10：00～16：00

10:00	オープニングイベント 郡山商業高等学校チアリーディング部
10:30	高倉人形浄瑠璃座
11:00	会津彼岸獅子舞　下柴獅子団
11:30	中村太鼓保存会
12:00	音路太子堂三匹獅子舞保存会
	休憩
13:00	北萱浜神楽愛好会
13:30	南須釜念仏踊り保存会
14:00	福田十二神楽保存会
14:30	南津島郷土芸術保存会
15:00	浪江町川添芸能保存会
15:30	町獅子保存会

13（日） 10：00～16：00

10:00	オープニングイベント 郡山商業高等学校チアリーディング部
10:30	水雲神社太々神楽保存会
11:00	内谷春日神社太々神楽保存会
11:30	藤の和芸能保存会
12:00	下町子供手踊り保存会
	休憩
13:00	豊間諏訪神社獅子舞保存会
13:30	原釜神楽保存会
14:00	相馬流れ山踊り伝承保存会
14:30	南小高神楽保存会
15:00	木ノ宮神社十二神楽保存会

10/12（土） 10：00～16：00

※終了時刻は変更になる場合があります。

出演10団体紹介

人形浄瑠璃
にんぎょうじょうるり

高倉人形浄瑠璃座　郡山市

郡山市日和田町には江戸時代に地元の住人が製作したと伝えられている三人遣いの人形が残されていて、県の文化財に指定されています。日和田ではこれにちなみ、新たに人形を作り、北海道の人形遣いの指導を受けて、2017年から始めました。それ以降、人形の操作を学ぶワークショップや発表会、出前講座も開催しています。今回の演目は、わけあって家を後にした両親の後を追った娘が母親と再会しますが、母親と名乗れずに別れるという悲話で、もっともよく知られたものです。

会津彼岸獅子舞
あいづひがんししまい

会津彼岸獅子舞　下柴獅子団　喜多方市

天正年間に全国に悪疫が流行した折、下柴の古橋角(覚)太夫が京都御所に鹿殿を建て獅子舞を演じ、退散祈願したところ、たちまちに平癒し天皇より「天下一鹿殿」の号を下賜されたという伝説がつたえられています。下柴には多くの文書が残され、その中には享保9年(1724年)に会津郡天寧村(会津若松市)、河沼郡郡山村(同)、上荒久田(同)・滝沢村(同)のほか、羽州米沢梓山(山形県米沢市)に伝授したことを示す文書が残されていることから、会津彼岸獅子の祖として、唯一福島県重要無形民俗文化財の指定を受けています。

つつこ引き祭り（中村太鼓）
つつこひきまつり（なかむらたいこ）

中村太鼓保存会　伊達市

中村太鼓は、江戸時代中期頃から始まった「つつこ引き祭り」の中で、つつこ(大俵)を引き合う下帯姿の裸衆の士気を高めるための祭り囃子でした。このような囃子が各地に伝えられていますが、中でもこれは最も勇壮です。大太鼓は、太く短いバチで豪快に叩き、踊るように演奏します。奏者によって叩き方も違うのも見どころの一つです。目で観て、耳で聴いて、体と心で感じてください。

音路太子堂三匹獅子舞
おとろたいしどうさんびきししまい

音路太子堂三匹獅子舞保存会　郡山市

この獅子舞は約千年前の太子堂創建当初より五穀豊穣や悪疫退散を祈願して奉納されたと伝えられていますが、この時代にはまだ獅子舞は始まっておりません。実際は350年前の寛永年間の頃からと思われますが、それでも県内では古い歴史を誇ります。獅子舞は、7月の第4土・日曜日に境内で行われています。種目は「おそちぎり」「はやちぎり」「はなすい」「扇の舞」で、四花という造花の作り物も立ちます。この造花は信者が厄除けとして軒下に飾ります。舞い手は太郎獅子・次郎獅子の雄獅子と、雌獅子の花子獅子で、郡山市立富田東小学校5年生6年生です。

北萱浜の天狗舞
きたかいばまのてんぐまい

北萱浜神楽愛好会　南相馬市

およそ170年前の嘉永元年(1848年)に越後から北萱浜へ入植した人たちが、悪魔退散の為に天狗舞を舞ったことに由来すると伝えられていて、県内では旧相馬中村藩にだけ伝えられている珍しい舞です。この舞は、から手舞、幣束舞、天狗と獅子の剣舞の順で演じられます。本来獅子は権現といって神の化身ですが、この神楽では悪霊の姿とみなし、天狗が獅子を祓うという珍しい舞です。
剣舞では、天狗が刀を持って激しく立ち会う珍しい舞で、平成7年、市指定無形民俗文化財になっています。

南須釜の念仏踊り
みなみすがまのねんぶつおどり

南須釜念仏踊り保存会　玉川村

この念仏踊りは、約370年の慶安年間に仏の供養として15，6歳の男女が新盆の家々を巡って踊ったのが始まりと伝えられています。種目は10曲あり、初めは立って扇子を持った立ち踊、次に立ち膝で綾竹を持った座り踊が続きます。もっとも芸能化が進んだ念仏踊で、県の重要無形民俗文化財です。

福田十二神楽
ふくだじゅうにかぐら

福田十二神楽保存会　新地町

福田十二神楽は、舞も囃子もすべて子供が演ずるという、神楽としては珍しい特色があります。この神楽は、慶応元年(1865年)頃に、宮城県伊具郡丸森町から伝えられました。もとは大人たちが演じておりましたが、福田ではのちに少年に伝えたといわれています。
この神楽は修験の芸能の面影を残す県内でも類例のない神楽で、平成6年に県指定重要無形民俗文化財に指定されました。

南津島の田植踊
みなみつしまのたうえおどり

南津島郷土芸術保存会　浪江町

田植踊は、たびたび飢饉に見舞われた東北地方にだけ伝わる芸能で、ことに福島県には多彩な芸態の踊が伝えられています。浪江町津島地区には、南津島を含む4集落に伝えられ、「津島の田植踊」として県の重要無形民俗文化財に指定されています。
南津島の田植踊は、早乙女をはじめ華やかな衣装を身につけ、優雅な振りで五穀豊穣を祈ります。種目は種まきから収穫、田の神を送るまでの農作業の一連の過程があります。早乙女の所作や口上に注目していくと、どの場面を踊っているかお分かりいただけます。

川添の神楽
かわぞえのかぐら

浪江町川添芸能保存会　浪江町

旧相馬中村藩には約180の地区に神楽が伝えられ、正月には年始の祓いとして、また地区の祭りには五穀の豊穣を祈って行われてきました。この神楽は明治40年頃に、修行を積んだ地元の神楽の名人が村人に披露したのが始まりとされ、やはり正月に悪魔祓いや豊年万作の祈願をしながら家ごとに舞い込んできました。その習わしは、浪江町川添地区の住民に脈々と受け継がれています。舞納めには獅子幕に多くの信者が入るという珍しい舞です。

川内の町獅子
かわうちのまちじし

町獅子保存会　川内村

川内村の町地区に元禄4年(1690年)の獅子舞免状が残されていることから、すでに330年ほど前から行われていました。この獅子舞は、阿武隈山地に多い獅子舞の中でも、文化財として価値が高く、昭和53年に福島県の重要無形民俗文化財に指定されました。
舞うのは通常、小学1年生から中学3年生までの子どもで、下川内の諏訪神社の祭礼に年3回奉納しています。獅子の衣装は珍しく狩衣で、振りにも気品があります。

10/13（日） 10：00～16：00

※終了時刻は変更になる場合があります。

出演９団体紹介

水雲神社太々神楽
みずくもじんじゃだいだいかぐら

水雲神社太々神楽保存会　二本松市

この神楽は、近隣の鈴石神社などと同じく出雲系の神楽の流れをくみます。古くは神職が舞い、昭和37年(1962年)から氏子若連会に引き継がれましたが、令和2年から新型コロナウイルス感染症により休止しました。その間、若連会員も減少の一途をたどり、継承が困難となったことから、氏子若連会OB有志が新たに保存会を組織し、5月3日の春祭りに4年ぶりに奉納しました。演目の大延は能楽とも通じる風格のあるものです。

内谷春日神社太々神楽
うちやかすがじんじゃだいだいかぐら

内谷春日神社太々神楽保存会　国見町

国見町内谷の春日神社に伝わる太々神楽で、明治15年(1882年)9月19日に初めて奉納されました。国見町第1号の無形民俗文化財です。発足当時は、秋の例大祭には3日間通しで奉納した記録も残っており、他町村の祭礼にも招かれました。昭和57年(1982年)保存会を設立し、中に楽人部を設け古老の熱心な指導と若い楽人の献身的な努力により受け継がれ、現在では舞数26座を継承しています。

柳津の大神楽
やないづのだいかぐら

藤の和芸能保存会　柳津町

旧二本松藩の御用神楽師の流れをくみ、「二本松神楽」ともいわれています。江戸時代には藩主の御前で舞いました。大正末期は南会津郡只見町梁取の山内家が継承し、戦前から戦後にかけて県内はもとより北関東一円を巡っていました。山内家が途絶えた後も弟子によって受け継がれ、これが藤の和芸能会につながります。現在の当主は、初代から数えて八代目です。本会は、今なお県内各地を巡っていて、余芸の神楽七芸には県内ではただ一つ曲芸も含みます。県の重要無形民俗文化財です。

鹿島下町の子ども手踊
かしましもまちのこどもておどり

下町子供手踊り保存会　南相馬市

この手踊りは、南相馬市鹿島区内の鹿島御子神社・男山八幡神社・日吉神社等で12年毎に行われるお浜下り神事に奉納する踊りとして、藩政時代から伝承されています。曲目は、相馬地方の民謡のほか伊勢音頭・八木節など全国各地に及んでいることが特徴です。保存会は、昭和21年(1946)に発足し、お浜下りの他、各神社の例祭、最近では各種芸能発表会、地域のイベントや老人福祉施設の慰問等社会貢献活動にも取り組みながら、保存・伝承に努めています。このような子ども手踊りは、江戸時代には「ややこ踊」といい、これもその流れをくむ貴重な芸能です。

豊間の獅子舞
とよまのししまい

豊間諏訪神社獅子舞保存会　いわき市

いわき地区には県内でもいち早く獅子舞が伝来しました。この獅子舞も300有余年の歴史があります。過去には何度か途絶えそうな時期もありました。最近では、東日本大震災により道具や衣装が流失しましたが、多くの方の支援により復興し継承しております。しかし、継承者不足は震災前からの課題です。いわき市内にかつては64地区にありましたが最近では、29地区に減少しました。海が近いこともあり、他地域と違い、勇壮な舞もあり、大切に継承していきたいと思っております。

観音畑の舞
かんのんばたけのまい

原釜神楽保存会　相馬市

神楽は、江戸時代初期に伝来したと伝えられ、除厄招福の神事として、代々厳格に守り伝えられてきました。
原釜地域には、漁師から深い信仰がある津神社という守護神があり、毎年行われる4月第3日曜日の例祭には神輿を海浜に遷座し、山海の獲物を神前に供え、神楽など数々の芸能を奉納するなど、原釜全地域挙げての祭典が今に続いています。
神楽には、獅子の舞、剣の舞、観音畑の舞、刺し鳥舞、その他数多くありますが、今回は珍しく、しかもユーモラスなジジ・ババ(観音畑の舞)を披露します。

相馬流れ山踊り
そうまながれやまおどり

相馬流れ山踊り伝承保存会　南相馬市

流れ山は、国の重要無形民俗文化財に指定されている「相馬野馬追」でうたい踊られる祭りの唄で、相馬中村藩の国歌・軍歌ともいわれています。唄はもともと田植にうたった田植唄でしたが、やがて野馬追に取り入れられ、踊りもつきました。踊りは4種類の構成になっていて、すべて馬に関する振りです。相馬中村藩の紋所「九躍の星」をつけた衣装・陣笠・陣羽織で踊ります。

南小高の神楽
みなみおだかのかぐら

南小高神楽保存会　南相馬市

この神楽は、小高の神楽と片草の神楽とともに、三行政区が兄弟神楽として習い受けたと伝えられています。神楽には男神楽と女神楽があり、南小高の神楽は男神楽のため元気よく激しく大きく見えるように舞って、悪魔払いをしております。種目は幕舞(四方固め)・幣束舞・鈴舞・散らしの4種で、舞い納めた後は、頭を噛んでもらい無病息災を願うこともあります。

木ノ宮神社十二神楽
きのみやじんじゃじゅうにかぐら

木ノ宮神社十二神楽保存会　郡山市

十二神楽といわれるのは、時間的に1日で舞うのが12座ほどであることによります。現在、新暦5月3日の木ノ宮神社春季祭礼に、御神楽殿で「岩戸開き」を中心に、16演目を奉納しています。
当団体は、木ノ宮神社春季祭礼に、十二神楽を奉納することを主な目的に活動しています。春季祭礼の前月(4月)の日曜夜に、集落の集会所で練習を4回行い、併せて会員の親睦をはかっています。また、毎年11月に開かれる熟海地区文化祭に、3年に1度、披露しています。

郡山商業高等学校チアリーディング部

オープニングイベントでは郡山商業高等学校チアリーディング部が会場を盛り上げます!

郡山商業高校チアリーディング部 KC CHEERSです。
私たちはダンスドリルの大会に出場し、全国大会の各部門で入賞しています。
また、地域のイベントやボランティアにも積極的に参加しています。